

会報

かけはし

(題字 支部長 新海今朝巳)

令和7年11月1日

第70号

発行者 新海今朝巳

「川口プラン」が語りかけるもの

副支部長 小林 博武



今年は戦後
八十年の節目。
この機会に、
戦後教育の先
駆け「川口プ

ラン」を振り返り、その今日的意
義を考えてみたいと思います。

昭和二十一年九月、高石市長と
梅根助役の熱意により、市内の全
教師と中央教育研究所が連携して
「川口新教育研究会」が発足しまし
た。社会科(当時は名称は未定)を

中心に教育課程を編成し、実験・

観察・問題解決型学習を重視。地
域の将来像として「文化産業都市

の建設」を掲げ、工業地帯と農業
地帯の調査を行い、生産・消費・

健康など八項目にわたる学習課題
を設定。各校が地域の特性に応じ
た実践を重ね、地域課題の解決に
貢献できる人材の育成を目指しま

した。

川口プランの画期的な点は、教
師自らが地域を調査し、教育課程
を構築したこと。調査や課題
決定には児童生徒・保護者に加え、
市長・篤農家・工場主・青年団長
など多くの市民が参加。教材構成
委員会では地域に根ざした学習課
題が選ばれ、学習活動は市民の協
力を得て展開されました。市当局

広がる つながり



退職以来、

「お話」を伝え
るボランティアア団体に入り、
子どもや大人

を対象とした「お話の会」で絵本
を読んだり、紙芝居や素話を演じ
たり活動を続けています。

の熱意、教師の使命感、市民の支
援が一体となって築き上げた成果
は、まさに地域教育の金字塔とい
えます。

この精神は、現在の教育にも大
きな示唆を与えてくれます。少子
高齢化やグローバル化が進む中、
地域の持続可能性は重要な課題で
す。子どもたちが地域の歴史や文
化に誇りを持ち、自ら未来を切り
拓く力を育む教育が求められてい
ます。「教師・行政・市民が共に
考え、共に協働する」姿勢は、今
こそ必要とされるものです。

退職校長会も、地域と学校をつ
なぐ架け橋として、未来を担う子
どもたちの成長を見守り、持続可
能なまちづくりの担い手育成に側
面より支えてまいります。

藤・戸田班 太田 有子

この会に入れていただいた理由
は私自身お話を聞くことが好きだ
ったということはもちろんですが、
会の方々の子どもたちの心を引き
付ける話術に感心したからです。
教師として人の前で話をするこ
とは慣れています、話を伝えるため
の基礎・基本を勉強していません

で、絵本を読んでも紙芝居を演じ
ても「この話し方は正しいのか？」
と自信を持つことが出来ません。

それで、まずは話し方の基本を
身に着けなくてはと、「朗読」の講
座に入りました。ことばのイント
ネーションの確認や自然で穏やかな
聞き心地の良い語り口を身に着け
るのは大変です。つい、元氣過ぎ
る教師の語り口が出てしまいます。

また「お話会」の会場を楽しく
飾りたいと思うようになり折り紙
のサークルにも入会し、様々な折
り方にも挑戦しています。これが
結構難しいです。先日は作品をよ
り引き立てる素敵な折
り紙が欲しいと、お茶
の水にある「折り紙会
館」へ行ってきました。
正方形の一枚の紙から
あらゆる物が折り出さ
れることには本当に驚きます。

子どもたちにお話を届けるとい
うことを始めてから、自分の興味
が広がり、それを始めてから決し
て出会うことのない人たちと巡り
合い、楽しく作品を作ったり、会
話を楽しんだり生活が彩られてい
ます。まだまだ知らないことにチャ
レンジし、楽しいことをたくさん
体験していきたいと考えています。



会 員 短 信

大切にしたいこと

川口班 佐藤 利幸

定年退職して九年目。現在は、住まいのある東部地区の中学校で教育相談員をしています。

現役時代：思い出すことの一つに、川口市教委から草加市教委への異動となった時がありま

す。県や南部の指導主事会でお世話になった方々や管理研で一緒だった仲間等のお陰で、違和感なく仕事に打ち込むことが出来たからです。

追悼試合

藤・戸田班 鷲谷 三義

長嶋茂雄終身名誉監督追悼試合巨人対阪神戦観戦のため、東京ドームに向かっている時、会報かけはしの原稿依頼の電話があった。テーマを何にするか、大の巨人ファンの私は「そうだ、この試合を綴ろう」と思い付いた。巨人の選手は全員が背番号3番

セレモニーは王貞治氏、松井秀喜氏、原辰徳氏等錚々たるメンバーに心躍った。肝心の試合は次々に打席立った背番号3の長嶋茂雄の

スコットランド軍楽隊の音楽祭で

草加班 船戸 姿子

県のががやき教師塾の専任講師を続ける中、海外旅行も楽しんでいる。八月にエンジンバラ城で七十五年続く軍楽隊の音楽祭「ミリタリータトゥー」を観覧した。ウクライナの軍楽隊と共に避難している子供たちも招待されていた。会場で数百人のバグパイプの音色に子供たちの歌声が重なり、思わず涙が溢れてきた。早く帰国でき完全に暮らせることを祈るばかりである。かく思う私は、年末の第九合唱や春の茶会席主に向けて奮闘中。日常生活に深く感謝しつつ。

忙中有閑

川口班 谷口 正夫

以前のかげはしで、取り組みたいことの精選と一意専心という投稿をした。あれから3年余り、時は自由自在とはならず、従前の仕事を続ける中、地域での活動で責任のある

立場となってしまった。これまで以上に広い地域、時には行政と関わるということも増えた。孫子を超え数十年後の地域について議論することもあり、忙中有閑を望む日々を過ごしている。

これからは余生はよせ、与生を過ごせということか。

今、思いつく

朝霞班 伊澤 千衣子

教育は国家百年の大計 という言葉が今ほど虚しく響くことはない。十年後の社会を予想しよう。AIがプログラムを組み、自動翻訳機一台で世界中どこへ行っても不自由しない。

では、学校は子どもたちにどんな力をつければ良いのだろうか。読書によって身につく読解力、思考力、発想力、対話力等である。文科省は学習指導要領改訂に向けて論点を整理しているという。数倍速で変化する社会に対応した指導要領にしてほしいと切に願う。

新たな気持ちで

川口班 鈴木 日出彦

退職までずっと学校現場は中学校のみだった中で、定年後は小学校の音楽指導に携わりたいと思いがあ

教育は国家一〇〇年の大計

川口市教育委員会教育長 井上 清之



戦後八〇年、学制発布から一五〇年が過ぎ、我が国の

教育は大きな転換期を迎えています。「教育は国家一〇〇年の大計」であり、先達の高い志と不断の努力の上に、世界に誇る日本の学校教育があります。私たちの使命は、先達の蒔いた種に花を咲かせ実を結ばせるとともに一〇〇年後を見据えた種を蒔くことであると考えます。

学校再編計画の策定

学校は地域コミュニティの核としての役割を担っています。少子化が加速する中、一定規模の児童生徒集団を維持することや老朽化が進む学校施設の更新時期を見据え、統廃合も含めた学校再編に向けて、審議会において学校の適正規模・適正配置の検討を進め、学校の核とした地域づくりに貢献して参ります。

外国人児童生徒対策

本市の外国人児童生徒数は約三四〇〇人、そのうち日本語指導が必要な者が約一六〇〇名在籍し

た三年間で小学校免許を取り、六十四歳から川口市で念願の音楽専科の臨任としてフルタイムで小学生に音楽を教えています。

小学校の教員としてはようやく二校、四年目の経験となりましたが、イメージしていたことを実際に指導することの難しさを感じる毎日、これからも日々新たな気持ちで過ごしたいと思います。

つ・な・ぐ

藤・戸田班 永井 利昭

さいたま市で学校地域連携コーディネーターとして勤務している。地域学習の支援、放課後・土曜日のチャレンジスクール支援、防犯ボランティアとの連絡調整など、学校と地域をつなぐパイプ役である。勤務校では、地域の方々が学校ファームアドバイザーとして野菜の栽培活動を力強く支援している。種まきから収穫・販売までの活動に関わりながら、学校・家庭・地域が一体となって子供達を育むために奔走している。

素敵な仲間

川口班 白尾 由美子

ラインのグループ名で、メンバーは、校長退職時の校務員さん、特支支援員さん、図書支援員さん、

再任用の先生と私の五名である。近年、夏休みしか会えないが、色々な所に足を向けている。今年は、はとバスで、東京タワー、ホテル雅叙園でランチ、迎賓館の見学という素敵な一日を過ごした。子どもはもちろん大人も、ネットだけで繋がっている仲間ではなく、顔を合わせて遊んだりおしゃべりをしたりする仲間をつくって、大切にしていきたいと思う。

青天の霹靂

草加班 水澤 郁夫

元気印だった妻が突然入院した。血液透析が必要となり、意識障害を起こしてICUに入り、一時命も危ぶまれた。二か月の入院を経て幸いにも機能回復、透析離脱ができた。今まで家のことは妻にまかせっきりで、妻の入院中大変困った。今回改めて思ったことは、家のことは自分もすべて把握しておくこと。元気なうちに夫婦で旅行や趣味等をどんどん楽しむこと。自分たちのこれからのことをしつかり決めておくこと。これらの実践に努めている今です。

自己肯定感と他者受容力

朝霞班 坂口 栄二
教育サポートセンター所長とし

て三年目。児童生徒・保護者・教職員の不安や悩みの解消に向け、教育相談事業やいじめ・不登校対策事業に日々取り組んでいる。

様々な相談事例の報告を受けるたび、自己肯定感を高める必要性を感じていたが、最近是他者受容力を高める必要性も感じている。今後子供だけでなく大人も含め、相手の良さや価値観を認め共生するために必要な他者受容力を高めるため、相談員とともに様々な事業に取り組もうと思う。

時報「市町村教委」

川口班 小堀 壮一

全国市町村教育委員会連合会事務局で働いて間もなく五年です。都内まで通勤しますが、週二日、十時始業なので、体は楽でありがたいです。

時々の任務を顧みると、市教委時代は「教育広報紙『川口の教育』」、教頭時代は学校だよりに携わってきました。現在の任務は「時報『市町村教委』」の編集です。

この時報の巻頭言は、本連合会副会長の教育長・教育委員様に執筆をお願いします。現場で汗をかく教職員への感謝と執務環境の向上を論述される方も多く、力づけられます。

しており、外国人対策は、市政の課題でもあります。

現在は、日本語の初期指導を拠点校化する計画を進めており、今後、外国人児童生徒には日本の文化やルールを身につけさせ、日本人の児童生徒にとっても多文化共生社会を生きる力を育成する新たな体制を構築して参ります。

不登校児童生徒への支援

本市では、不登校支援の中核的拠点として、令和八年四月「学びの多様化学校」を開校いたします。併せて、教育支援センターを4カ所程度設置する計画を進めており、在籍校・学級に近い居場所での不登校の未然防止と学校・学級復帰を支援する体制の構築に取り組んでいます。

学校教育を支えるのは、言うまでもなく一人一人の教職員です。

山積する教育課題を解決するための土台は、教職員にとって働きがいと働きやすさを感じる職場環境を整えることにあります。今日の一步が一〇〇年後に続いていることを肝に銘じ、目の前で学ぶ子どもたちを最優先としながらも、まだ見ぬ未来の子どもたちと教職員の笑顔を思い描きながら様々な教育施策を推進して参ります。

支部だより

◆第一回理事会が開催さる

九月九日(火) 川口市立並木公民館に於いて開催されました。

新海支部長より、「県の会合で、『教育界の情勢は変化している。今まで通りでよいのか。』という話がありました。退職校長会としては、当面、計画通りに前に進めることが第一であると考えます。ご協力よろしく願います。」と挨拶があり、議事に進みました。

◆現職・退職校長北足立南部支部教育推進研究協議会

○「研究」が加筆されました。

○開催日が、十一月十九日(水)に変更となりました。

○「現下教育の諸課題について」をテーマに提案されます。

①「様々な危機への対応と未然防止の体制づくり」

川口市立舟戸小学校

発表 駒崎弘匡 校長

川口市立神根小学校

資料作成 篠崎弘敬 校長

②「生き生きと輝く対話を生み出す道徳教育」

川口市立八幡木中学校

岸田健吾 校長

③「学校経営アドバイザーから見た令和の学校経営『未来のあたり前』を共創する」

退職校長会蔵・戸田班

小高美恵子 元校長

(文責 原田 明)

班だより

◆蔵・戸田班

令和七年度は、加藤正明新会長の下、新会員三名を加え、会員数八十六名でスタートした。

◎各種事業等について

本年度の主な事業について

・地域教育の推進に協力(蔵市学校土曜塾の運営等)

・夏季懇親会・新年懇親会

・秋、春の散歩(秋：さいたま市造幣局・来春：都内の史跡)

・北足立南部支部教育推進研究協議会十一月十九日(水)発表予定

◎郵便物等通信費削減策について

会報の発送はこれまで同様郵便に頼るが、総会、懇親会の案内、出欠についてはメール配信し、グループフォームで出欠の回答、集計を行っている。通信費を抑え、出欠の集計も速くなった。

《今後の活動に向けて》

コロナ禍の影響で諸活動が減り、また再任用制度の関係で新規会員の加入率、行事等への参加率が低下。蔵・戸田班では若手会員が幹事となり、会の運営を支えて



ご冥福をお祈りします

沖内 義次様(朝霞) 7/16 八十四歳

柏 慶次郎様(朝霞) 7/30 九十六歳

大久保昭男様(朝霞) 8/4 七十六歳

(10月1日現在)

きたが、難しくなってきた。入会を進める際、全国まで続いている組織であることや活動内容を丁寧に説明し、加入率を高めることが必要だと感じている。また、春と秋の散歩を周知、活用することで、中堅会員と若手会員の交流を増やし、諸活動の充実、改善を図り、会員相互の親睦を深めていきたいと考えている。

(文責 石井 裕久)

◆草加班

本年度は役員改選の年度となり、高木宏幸会長の下、会員九十四名でスタートしました。令和七年度の新会員も自己紹介等を行い、また、新たに幹事を複数体制として時代にふさわしい充実したスタートとすることができました。

また、総会後には、草加市教育委員会教育長 山本好一郎様に、「草加の教育の現状と課題」の演題にてご講演いただきました。

その後の懇親会も盛会とすることができました。

今後草加市教育振興への寄与と共に、会員相互の親睦と健康維持増進を図ってまいります。

◎草加市教育支援の継続

▼第四次教育振興基本計画の推進

会員の豊富な教育経験を活かした児童・生徒への学力向上支援の協力継続。



▼草加寺子屋事業(土曜学習・放課後学習)への学習支援継続。小学校二十一校、年間十回基本。

▼放課後児童クラブ事業等に協力。

◎主な活動

①役員会(四月四日、九月十七日)

②クラブ活動

◇ゴルフ開催 大会等への参加

◇読書会 新渡戸稲造「武士道」勉強会

③行政への要望書提出

④忘年会(七年十二月十三日)

⑤現職・退職校長研究協議会(八年二月)

(文責 若林 茂次)

あとがき

北足立南部支部会報「かけはし」第七十号をお届けします。

ご多用の中、玉稿を賜りました皆様には心より御礼申し上げます。

さて、前号六十九号の巻頭言で新海今朝已新支部長は、本会を『教育の振興に寄与する』会である旨、示されました。

それに呼応するように、七十号では戦後教育の先駆けとなった『川口プラン』について紹介されています。小林博武副支部長によるものです。「教師・行政・市民が共に考え、共に協働する」姿勢こそが持続可能な街づくりにつながる

とし、退職校長会もその架け橋の一員にと述べておられます。

(前田 一男)